

短期集中サービス（訪問C）における 事例報告

桑名病院
訪問リハビリテーション
村木文彦

北部東地域包括支援センター

～ケースの概要～

男性：81歳

介護認定：要支援2 (30/2/16～31/2/28)

身体障害者手帳：2級

(大腿骨骨頭壊死による右股関節機能の全廃)

疾患：難聴・糖尿病・脳梗塞

前立腺癌・腰椎症・肺気腫

大腸ポリープ・腎臓病

～ 経 過 ～

妻と2人暮らし。平成29年11月までは、自転車で老人福祉センターに通い、囲碁、将棋を楽しんでいた。12月に腰痛がひどくなり3週間入院される。平成30年3月医師より歩行訓練を勧められた。この時に歩行補助具のない状態での歩行訓練は不安があり、歩行器の利用希望に伴い介護申請。

家事全般を妻が担い、本人は外に出ることも一切なくソファに座るか横になってテレビを見て毎日を過ごされていた。



～導入しようと思った理由～

平成30年歩行器利用開始

ほぼ毎日自宅周辺を歩かれ、3か月後には2週間に1回程、老人福祉センターにも行けるようになった。

ところが、腎機能低下に伴い痛み止めの内服が中止となり腰痛が再現。更に、猛暑を迎え外に出られずに運動機能も低下傾向にあった。痛み止めを使えない為に腰痛に対する指導が必要と判断。

主治医からの助言もあり、本人に専門職による関与を提案したところ、「利用してみたい」との意欲が見られた。スピーディに利用開始可能な「いきいき訪問」の導入が最適だと思った。

～サービスを使って良かった点～

- ・本人が前向きになられた時を逃さず専門職に訪問してもらえた・・・**スピーディー**
- ・タイムリーな専門職の介入により、専門職にじっくりと体調について伝えることができた。また、本人の安心感が得られ、心地よく歩行訓練が行なえ、モチベーションも高まった・・・**スムーズ**
- ・痛みが軽減した事で、歩行距離が伸び自信にも繋がった。
- ・歩行器の高さ調整と姿勢・動作指導を受け、屋外歩行が容易になった。
- ・入浴の一部の介助が必要であったが、ほぼ自立して入浴ができる。



～ご清聴ありがとうございました～

村木先生へバトンタッチ致します
宜しくお願い致します



桑名市北部東地域包括支援センター

今までの生活

会社員を定年後、囲碁や将棋をされ過ごされる。

昨年末年始に右股関節骨頭壊死による足の付け根と腰痛があり入院となる

大腿骨骨頭部壊死による右股関節機能低下
腰椎椎間板ヘルニアの既往歴あり

経過と状況

1回目：

腰痛があるが腎機能低下により痛み止めが服用できないため腰痛に対して指導してほしい

日中はソファで臥床して過ごされてる。

疼痛自制内であり外出に対して意欲的

屋内杖歩行と伝い歩きにて移動。床からの立ち上がり可能

早朝に15分程歩行器で家の周りを歩いている

経過と状況

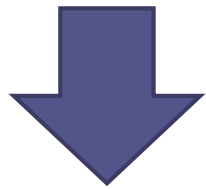
1回目：

猛暑により外出できない

以前は自転車で福祉センターに通っていたが、
屋外は歩行器歩行になったため通いにくくなった。

療法士のかかわり

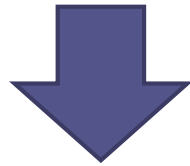
腰痛があるが腎機能低下により痛み止めが服用できないため
腰痛に対して指導してほしい



- 2週間に1回の頻度で訪問
- 腰痛改善指導
- 状態確認日常生活への影響

療法士のかかわり

猛暑により外出できない
以前は自転車福祉センターに通っていたが、
屋外は歩行器歩行になったため通いにくくなった。



移動能力の維持
屋外歩行能力の確認
屋内歩行能力の確認

経過と状況

2回目： 腰痛によりソファで臥床して過ごされてる
前日に福祉センターまで歩行器歩行される。
片道25分くらい。帰りは休憩（1回）が必要。
屋内杖歩行と伝い歩きにて移動。
床からの立ち上がり可能。入浴はシャワー浴

3回目： 腰痛訴えみられるが自制内。
ADLに影響ない様子。
福祉センターは暑くて行っていない。
自宅周囲15分くらいは歩いている。

経過と状況

4回目： 座る時間長いと腰痛出現

血圧147/67 P53 屋内屋外移動問題みられない

1週間前に福祉センターに行ってきた。

暑くないので今後も行く予定

朝自宅近く歩行している。今後夕方も増やしてと指導

浴槽への入浴未実施

5日目：腰痛自制内。血圧155/61 P60

移動時体幹屈曲位のため伸展位とるよう指導。

前日、福祉センターに行ってきた移動問題ない。

天気が悪いといけない。2日に1回浴槽には入ってる。

経過と状況

6回目：腰痛は自制内となっており外出に対して意欲的

7回目：腰痛は変わらず出現するが自制内。血圧高値のため気になる。

8回目：腰痛は自制内。

血圧高値のため気になる。BP151/72 48

屋外歩行15分程度（10時、14時頃）は実施しているが、
3週間前以来、福祉センターには行っていない

課題と問題点

腰痛が出現により歩行距離の増加が困難。
歩行能力の低下により日中活動性低下している。

2回目: 腰痛出現 日中の外気高いため外には出れない

3回目: 日中の外気高いため外には出れない

4回目: 外気温落ち着いてきたため

外出意欲でてきてるが、福祉センターへの回数少ない
腰痛気になる

課題と問題点

- 5回目：雨天時外出できない
福祉センターにはいきたいと意欲みられる。
- 6回目：福祉センターに行ってる。
腰痛は変わらず出現するが自制内。
- 7回目：福祉センターには行けるが、不定期との事。
血圧高値のため気になる。訪問時139/63 50
先日もセンターまで行ったが血圧高値になったため
帰宅した。

課題と問題点

8回目：10日前に動悸激しく救急車にて医療センターに。
2日前に再受診し心不全があるとの事、
カテーテル必要だが年齢のため困難との事
血圧高値の時があり心配で外出先より
帰ってくることもあった

介入を終了して

問題の解消

腰痛の緩和

腰痛や天候による身体活動の不活発化の防止
している生活行為の改善

新たな問題の発生

高血圧 循環器疾患

| | | 事前 | 事後 予測 | 備考 | 事後 |
|-------------|------|----|----------|---|----|
| A D L | 室内歩行 | △2 | ○2 | 屋内では、少しつかまり歩きするがほぼ独歩 | ○2 |
| | 屋外歩行 | △1 | ○2 | 歩行器使用により15分くらい歩ける 福祉センターまで25分歩ける 途中腰掛ける など休みが必要 | ○2 |
| | 外出頻度 | △1 | △1 | 毎日午前・午後に歩行器にて歩行している | ○2 |
| | 排泄 | ○2 | ○2 | 布パンツにて自立 トイレは頻回、一 日10回夜間3~4回 | ○2 |
| | 食事 | ○1 | ○1 | 問題なし | ○1 |
| | 入浴 | △2 | ○2 | 長男の介助で週2回入浴している。長男には手の届 かない背中を洗ってもらっている。 | |
| | 着脱衣 | △2 | ○1 | 上着は自分でできる。ズボンを履くときだけ、妻が介助する。 | |

| | | | | | |
|------------------|------|----|-------------------|-------------------------------|----|
| I A D L | 掃除 | ×1 | ×1 | 妻が行っている | |
| | 洗濯 | ×1 | ×1 | 妻が行っている | |
| | 買物 | ×1 | ×1 | 妻が行っている | |
| | 調理 | ×1 | ×1 | 妻が行っている | |
| | ごみ出し | ×1 | ×1 | 妻が行っている | |
| | 通院 | ○2 | ○2 | 妻の付き添い、息子による送迎。帰宅はタク シーを使用 | ○2 |
| | 服薬 | ○1 | ○1 | 自己管理において内服できている。 | ○1 |
| | 金銭管理 | △2 | △2 | 妻が行ってるが、少額に金銭なら自己管理でき る | △2 |
| 電話 | ×1 | ×1 | 難聴のため電話が出来ない・とらない | ×1 | |
| 社会参加 | ×1 | ×1 | 気候が良ければセンター通いたい | | |

いきいき訪問（訪問C） メリット

- 介護保険サービスの訪問リハビリと違い

訪問リハビリでは医師からの指示書が必要

いきいき訪問では、指示書がない分介入が早くスピード感のある支援が可能

応援会議開催前に介入が可能

ケアマネージャー同行訪問することで

- 利用者情報の共有と
- 目的の明確化
- 介入時の関係構築がスムーズに行うことができる

いきいき訪問 （訪問C）

デメリット

- 指示書が無いいため医療資源が必要な時
主治医に連絡、相談することが難しい